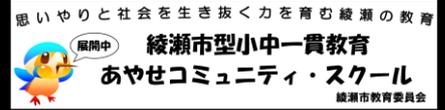


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の 分析について (小学校) 綾瀬市教育委員会



1 調査について

令和5年度全国学力・学習状況調査が、令和5年4月18日に小学校6年生と中学校3年生を対象とした悉皆調査として、教科に関する調査（国語及び算数）と質問紙調査を実施したことを受け、この調査結果を本市の児童・生徒の学力・学習の状況を把握する資料の一つとし、今後はこの分析をもとに、指導の改善を図り、学力向上につなげてまいります。

2 教科に関する調査の平均正答率と平均正答数

| 小学校 | | 国語 | 算数 |
|------------|-----|---------|----------|
| 綾瀬市 | 正答率 | 61% | 56% |
| | 正答数 | 8.5/14問 | 9.0/16問 |
| 全国 (公立) | 正答率 | 67.2% | 62.5% |
| | 正答数 | 9.4/14問 | 10.0/16問 |

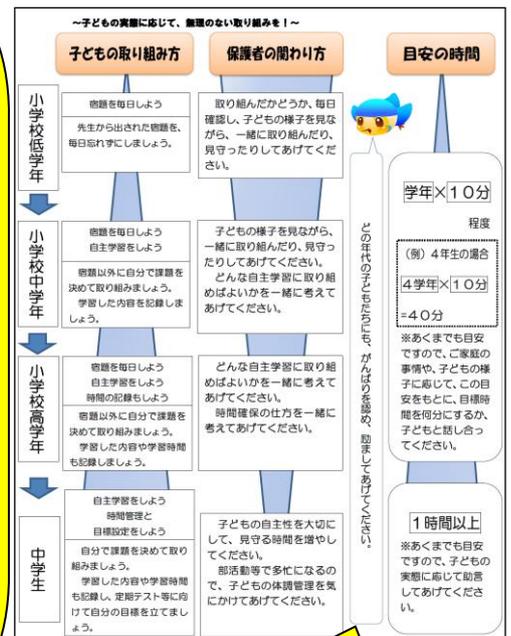
3 確かな学力の向上に向けて

- 綾瀬市型小中一貫教育に取り組み、9年間を見通した系統的な学びを実践しており、確かな学力の向上を図るために、「授業での振り返り」と「家庭学習の習慣化」を推進しています。
- タブレット端末を効果的に活用した授業改善に努めるとともに、「学習支援者」の配置により配慮の必要な児童への学習支援を行います。
- 少人数学級や少人数指導の実施など、きめ細かな指導体制を進めます。
- 読書の充実を図るために、1人1冊配本事業や学校司書の配置、学校図書館の充実等の読書環境の整備に努めます。
- 「あやせゼロの日運動」「あやせ学びづくり運動」「あやせ夜間ゼロ運動～ケータイ・スマホ・ゲーム機等の夜間ゼロ運動～」を「あやせコミュニティ・スクール」等を通して推進し、家庭・地域との連携を深めていきます。



○綾瀬市では、小中一貫教育の取組の一つとして、児童・生徒が安心して授業に臨めるように、「授業スタイルの共通化」に取り組んでいます。

○特に、めあて（目標）を明確にすることや、めあてに沿って振り返ることを大切にしています。



○綾瀬市では、「家庭学習の手引き」を作成し、学校と家庭が連携した家庭学習に取り組んでいます。



国語問題



国語正答例

- 全 14 問中、正答率が 80%を上回ったのは 2 問で、50%を下回ったのは 4 問です。
- 全 14 問中、無回答率が 20%を超えたのは、13 問目と 14 問目となっていました。

正答率が最も高かった問題

正答率が最も低かった問題

雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。

1 比らべて
2 比べて
3 比て

(正答) 2

問題番号: 1-三(2)イ
 問題の概要: 「比べて」の送り仮名として適切なものを選択する。
 出題の趣旨: 送り仮名に注意して漢字を文中で正しく使うことができるかをみる。

(2) 部イを書き直したものとして適切なものを選び、次の1から3までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

問題番号: 1二
 問題の概要: 空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。
 出題の趣旨: 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる。

【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしょうかくすることができました。しょうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下旬頃に学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア いがいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイくらべてみました。ウ ささんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。

農家の田んぼの雑草の量
学校の田んぼの雑草の量

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書こうとしています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

に学校の米作りの
に入る内容を

(条件)
 ○ 学校の米作りの問題点については、「川村さんの文章」のグラフ「農家の田んぼと学校の田んぼの雑草の量」と「カード⑤」のそれぞれから分かって書くこと。
 ○ 問題点の解決方法については、「カード⑤」をもとにして書くこと。
 ○ 六十文字以上、百字以内にとめて書くこと。

(正答例)
 ・グラフから分かるように、学校の田んぼでは雑草が増え続けていたため、雑草に栄養をとられてしょうかくが減ってしまうかもしれないという問題点がありました。そこで、雑草取りの回数と人数を増やすことにしました。
 (100字)

※上の半欄用紙は下書き用紙なので、使っても使わなくてもかまいません。
 解答は、解答用紙に書きましょう。
 ※●の印から書きましょう。どちらうで字を定えずに、続けて書きましょう。

【指導の改善に向けて】

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するために
 伝えたいことを明確にし、分かりやすく伝えるためには、どのような図表やグラフなどを用いるとよいかを考えられるようにすることが大切です。そのためには、それぞれの図表やグラフの特徴や優れている点などについて、他教科等と関連させて指導することも考えられます。また、推敲の際は、図表やグラフなどの使い方は適切か、図表やグラフを用いることで書く必要がなくなった文章がないか等の観点で見直しができるように指導します。
- (これも大切) 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れるために
 日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れることが大切です。また、「おっしゃる」「申す」のように特別な言葉を使った言い方があることや、「お(ご)ーになる」のような言い方があることを理解できるようにすることも指導します。



算数問題



算数正答例

- 全 16 問中、正答率が 80%を上回ったのは 3 問で、50%を下回ったのは 8 問です。
- 正答数の中央値が全国と比較して 2.0 問下回っています。

正答率が最も高かった問題

正答率が最も低かった問題

問題番号：1(1)

問題の概要：5 脚の椅子を重ねたときの高さを求める。
出題の趣旨：伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる。

1

同じいすがたくさんあります。

(1) はるまさんたちは、いすをかたづけするために、下のように重ねています。

1 じゃくのいすの高さは、45 cm です。
下のようにいすを重ねていくと、高さが変わります。

いすの数と高さの関係を、下の表にまとめます。

| | | | | | |
|-----------|----|----|----|----|---|
| いすの数(じゃく) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 高さ (cm) | 45 | 51 | 57 | 63 | A |

表の中の A にははるまさんたちが書いた数を書きましょう。

(正答) 69

問題番号：2(4)

問題の概要：テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く。
出題の趣旨：高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由と言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくりました。

上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

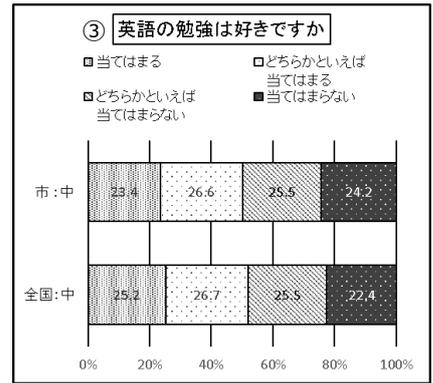
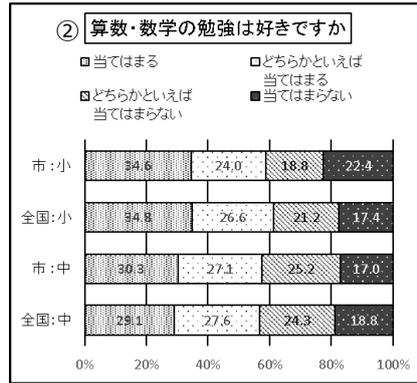
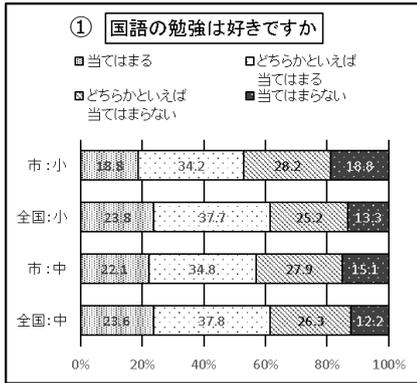
【正答の条件】
番号は、3 と選び、次の①、②の全てを書いている。
① 三角形 (お) と三角形 (か) の底辺の長さが等しいことを表す言葉や数
② 三角形 (お) と三角形 (か) の高さが等しいことを表す言葉

【指導の改善に向けて】

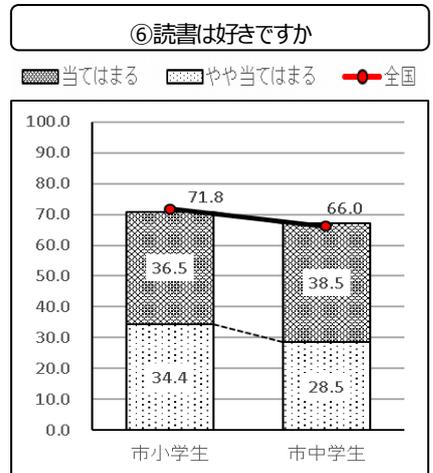
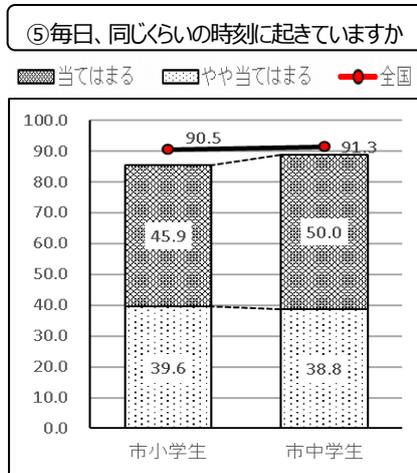
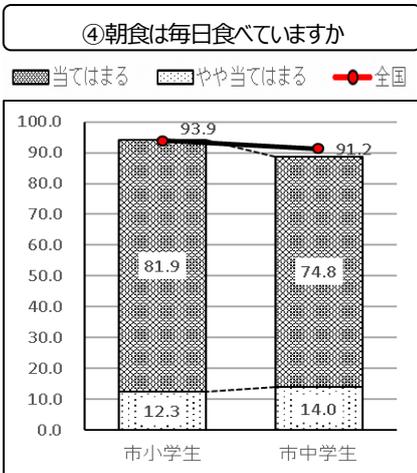
- 図形の構成の仕方を観察して図形について判断することができるようにするために
三角形や平行四辺形の面積の公式についての理解を深め、底辺の長さが等しいとき、高さの具体的な長さが分からなくても、高さが等しいと分かれば三角形や平行四辺形の面積は等しいと実感を伴って判断できるように指導します。
- (これも大切) 筆算を具体物や図に表すことで、式と関連付けて考察できるようにするために
除法の筆算が、被除数の 66 を 60 と 6 に分解して計算するという考え方に基いていることを理解できるようにすることが大切です。第 1 学年で学習した、十を単位とした数の見方や 2 位数の表し方に基いていることも理解できるように指導します。
- (これも大切) 百分率で表された割合について理解できるようにするために
図を用いて、割合をとらえることができるようにすることや、基準量を自ら決めて、それに対する比較量を捉えることができるように指導します。

【児童・生徒質問紙調査の結果の分析】

児童・生徒質問紙



○「国語（小学生・中学生）、算数（小学生）、英語（中学生）の勉強は好きですか」については、全国より下回る傾向にありますが、中学生の数学については、全国より上回っています。
○今後も引き続き、児童・生徒が「国語、算数・数学、英語の勉強が好き」と感じるような授業づくりに努めていきます。

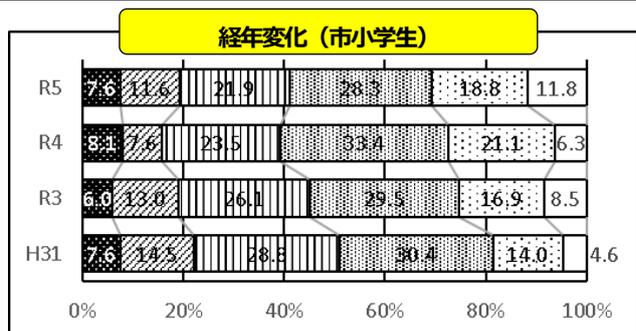
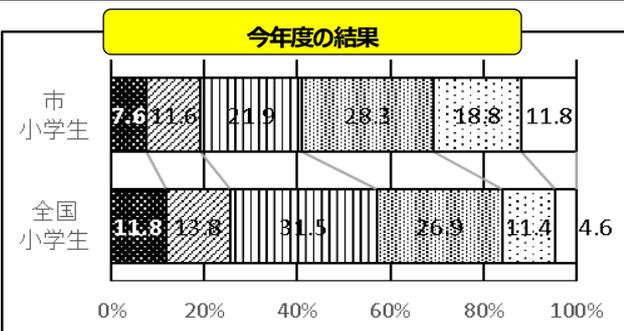


○「朝食は毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については、「当てはまる・やや当てはまる」の回答が小学生・中学生ともに90%前後となっており、定着が見られます。
○「読書は好きですか」については、「当てはまる・やや当てはまる」の回答が小学生では70%、中学生は65%を超えており、読書好きの児童・生徒が多いことが分かります。

ご家庭と協力したいこと ～家庭学習の習慣化～

■ 3時間以上 ■ 2～3時間 ■ 1～2時間 ■ 30分～1時間 ■ 30分未満 □ 全くしない

普段（月曜から金曜日）の日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（質問紙調査から）



※R2は調査なし

○家庭学習の習慣化を目指していますが、全国平均と比べると、家庭学習の時間が少ないことがうかがえます。帰宅後の家庭での時間の使い方を、改めて見直してみることも大切です。お子さまが自分で学習の計画を立て、自主的に学習に取り組めるよう、学校で取り組んでまいります。ご家庭でも引き続き温かい言葉かけや励ましをお願いします。